

指導員としての経験を認め、 継続して働けるように

●市の考えは最初から「競争試験」ではなかった

「船橋市放課後児童健全育成事業 公設公営化に向けての基本方針」（以下「基本方針」という）では、公設公営の学童保育における指導員（職員）の任用（採用）について、「一般公募による『競争試験』」をおこなうとしています。

しかし、市は最初から「競争試験」をおこなうという考えでいたわけではありません。

昨年8月、最初に出された市の計画案「放課後児童健全育成事業の考え方」（以下「考え方」という）では、今働いてる指導員は別途に選考することが打ち出されていました。

私たちはこの「考え方」をみて、市は現指導員がこれまで勤務した実績（経験）を考慮する選考方法をおこなうのだと理解してきました。

ところが、船橋市学童保育連絡協議会（市連協）との協議が進行中の今年2月に「中間報告」が出され、その中で指導員の採用方法について、「競争試験」をおこなうことが突然打ち出されたのです。

結局、「指導員問題」について十分協議が尽くされないまま、「競争試験」の方向が「基本方針」へと受け継がれていったのです。

「考え方」

②採用方法について

資格：保母等の資格を有し、且つ心身ともに健康で児童の育成に熱意を有する者。
（現指導員については、別途基準を設ける。）

選考：現指導員については、資格要件を有する者について別途選考し、不足分について一般より公募する。



「基本方針」

13 放課後児童指導員の採用

(2)採用方法

一般公募による「競争試験」とし、筆記・経歴、実施（体力）・口述・身体検査のうち三以上を組み合わせる。

●これまで働いてきた実績が考慮されないのは

どうしても納得がいきません。

学童保育という事業そのものが変わるわけではないのに、これまで事業を支えてきた者を、どうして継続して働くことが認めようとしないのでしょうか？

私たちは、これまでの実績を認め、希望する者については引き続き働くことができるように強く要望します。

そのために、「競争試験」ではなく、「現在の指導員には別途選考して採用する」よう求めます。



船橋市学童保育指導員労働組合

1999年10月 連絡先 小栗原小学童保育 047-335-8664
5日

現場で働く指導員の声を聞いて！

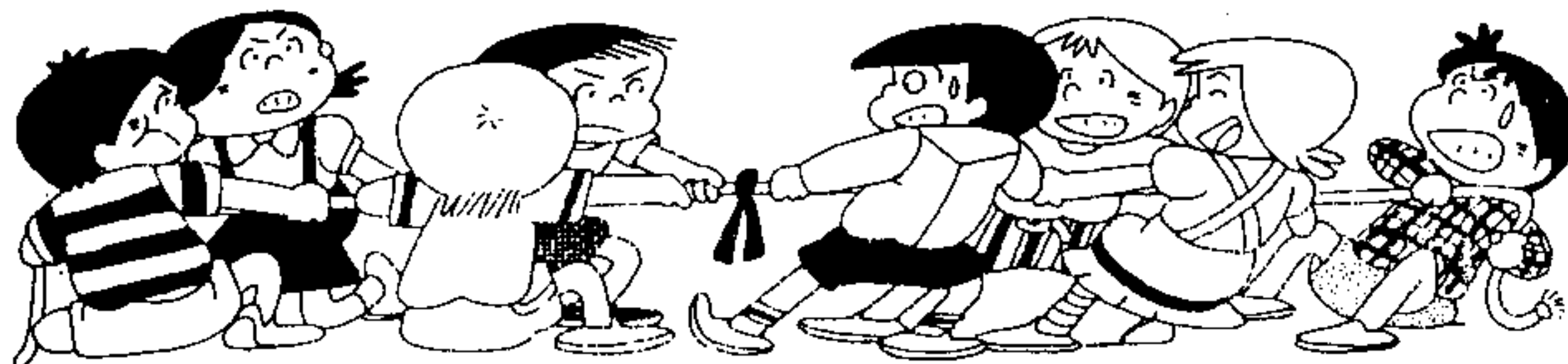
私が指導員になった頃（今から20数年前）、学童保育に対して今以上に社会的理解は低く、それにもとない指導員の身分保障も極めて劣悪でした。大学卒で数万円の給料で、なおかつアパート生活でしたから、秋田の実家から学生時代と同様に仕送りしてもらいながら指導員の仕事につきました。

「いつまでボランティアみたいな仕事を続けるのか」と母から言われ、「そんな給料でどうやって一人で生活していくの」と学生時代の友人に言われ、「給料が安い」と言い仕事を辞めていった仲間。また、学童保育の大好きな子が、保育料が高いため退所してしまったりで、私自身も、長い事働き続けようとは思っていませんでした。

しかし、働く親を持つ子どもたちが、学童保育という生活の場を通して、ぶつかりあって泣いたり、出来なかった事ができるようになったとお互い自分のことの様に喜んだり、指導員も時には子どもに裏切られて怒ってみたり、響き合いつつ子ども時代をくぐりながら成長し合っている子どもたちの姿に喜びを感じてきました。指導員の質の向上をめざし、実践的な力量が厳しく問われつつ、仕事のもつ魅力がより強いものとなり、今日まで続けてきました。

私も長い年月の中では公設公営の学童保育を目指し、行政に働き掛けもしてきました。ようやく公設公営になるというのに、仕事が継続できないというのは納得いきません。公設公営になって積み上げてきた歴史が受け継がれ、私も安心して生活出来る保障を受け、継続して働きたいです。

小栗原あそびクラブ 戸谷和子



幼稚園に勤めたくて就職活動をしている時、偶然「学童保育の指導員」という一つの職業を見つけました。今年で指導員4年目、この仕事に私は誇りを持っています。

「ただいまー」この声を聞くとワクワクしてきます。学校から帰ってくると「あのね…」「今日ね…」と一気に色々な話をしてくれる子どもたちは、とても生き生きしています。

そんな、おしゃべりの中に、最近変化が出てきました。来年度から公設公営になる、にこにこクラブの場所も新しくなる…お家の人から聞いているようで、ポロッと口にする子どもがでてきたのです。「公設公営になっても、沢山あそべる？」そんな言葉をととても辛く感じています。指導員の私も、公設公営に不安を感じているのに、子どもが不安にならないはずがありません。保育内容についてまだ詳しい話がされていない中で、子どもたちに説明する言葉もなく、月日だけが過ぎていってしまうのが現状です。

自分の身分も不安です。親たち・子どもたちが納得できない公設公営にはなってほしくありません。

飯山満にこにこクラブ 藤高ゆう子